

文語日誌(平成二十五年四月十日)

BORIS GOODNOV(ボリス・ゴドノフ)(九二年一月)

ムソルグスキー作曲。期待したるブルシユラーゼのボリスなれど、表情に乏しく、翌日の新聞の見出しも「權威なきボリス」と低評價なり。

LADY MACBETH DE MTSENSK(ムツェンスクのマクベス夫人)(九二年二月)

シヨスタコーヴィチ作曲。スカラ座との共同制作。舞臺は立派なる造作にて、第一幕のキャベツ畑は製作の手間俵ばる。火の点く場面は、客席に熱氣傳はる。最後の氷割るる場面も迫力あり。主役の米國人ソプラノ、メアリ・ジエーン・ジョンソン好演す。

CONCERT BATTLE(バトル)(九二年三月)

米國の黒人ソプラノ、キャスリーン・バトル、ベルリオーズの aria 及びリヒアルト・シュトラウスのオケ伴奏附歌曲四曲を歌ふ。彼女、聞きしにまさる小さき聲なれど、技巧は超絶的に、ステージマナーの優美なること、ヨーロッパに彼女に優る者無し。

ELEKTRA(エレクトラ)(九二年三月、九二年五月)

リヒアルト・シュトラウス作曲の「エレクトラ」。五月の主役は絶好調のギネス・ジョーンズ。ジョーンズほどに演技力ある歌手、今後當分出づる見込み無し。母親役のリザネックも立派。

UN BALLO IN MASCHERA(假面舞踏會)(九二年三月、四月)

ヴェルディ作曲。ルチアーノ・パヴァロッティのバスティーユへの登場は一つの「事件」なりき。初日には、他の観客のすつかり揃ひたる處へ、デヌ外相(オペラ好き)、ストロースカーン通産相とその妻アン・サンクレール(人氣キャスター)、ルツジエーリら有名人次々に來場す。パヴァロッティの歌唱は流石に見事にて、アメリカ役のアプリレ・ミロもいかにもヴェルディ向きの聲なり。レナート役のアガシユ、オスカル役のフォチレも好演。演出に對してのみブーの聲高し。

二回目の公演は、残念乍らパヴァロッティ、ミロとも揃つてキャンセルと相成る。代役(ミヒヤイロフ、リュバルスカのスラブ系コンビ)にて値段の同じなるところがオペラの不思議なるところなり。初日と比ぶれば、百對一の内容なり。

LEFS COONIES D. HOFFMANN(ホフマン物語)(九二年四月)

オツフェンバック作曲。ホフマン役のフランシスコ・アライザ、大いに期待したるも不調なりき。(二か月後にミュンヘンにてグルベローヴァのルチアの相手役を勤めたるときは見違ふる程の好調なれば、年齢的なる衰へにはあらず。)拍手喝采せられたるはオランピア役のナタリー・デッセー(發音はドウセ)なり。佛蘭西にマド・ロバン以來の超絶技巧コロラトゥーラ・ソプラノの良き傳統の存續するを認むるはあな嬉し。一曲の aria にてかくも長く續く拍手を聞きたるは、後にも先にもこの時のみ。デッセーのバスティーユ・デビューに立ち會ふことを得たるは我が一生の寶と言ふも過言にはあらず。

RECITAL VON STADE(フォン・シュターデ)(九二年四月)

米國のメゾソプラノ、フレデリカ・フォン・シュターデのリサイタル。前半はイタリア歌曲、マラー、オツフェンバックのジエロスタンのアリア。後半は直前に逝去したるメシアン追悼の曲、サテイなど。プーランク歌曲にて出だしを間違ひ遣り直す。米國人、佛蘭西語の歌を巴里にて歌ふはかなりの緊張を要するものと見ゆ。アンコールは四曲、①ケルビーノのアリア、②ショーボート、③ペリコールより酒呑みの歌、④ウッド・ペッカー。

RECITAL STÜDER(ステューダー)(九二年六月)

米國のソプラノ、チェリル・ステューダーのリサイタル。今や世界のトップ歌手の一人なれば、日頃バステイーユに出演する歌手より格は上なり。前半はワーグナーとシューベルトの歌曲、後半及びアンコールはシュトラウスの歌曲なり。

シーズン九二・九三年

LE NONZE DI FIGARO(フィガロの結婚)(九二年九月)

伯爵夫人役の米國人ソプラノ、レイは舞臺姿美しけれど、元來メゾなれば音を下げた歌ふ。スザンナ役のマクローリンは演技上手。グシユルバウアーの指揮は眞面目に過ぐ。

CONCERT ROSSINI ANDERSON(アンダーソン)(九二年十月)

エール大學にて學びたる才媛、米國のコラトウーラ・ソプラノ、ジューン・アンダーソンのコンサート。高き聲より低き聲まで自在に操り見事といふほか無し。仕事の關係にて前半のみを聴き、後ろ髪を引かれつつホールを後にせり。

JEANNE D'ARCAU BUCHER(火刑臺上のジャンヌダルク)(九二年十月)

オネゲル作曲。ほとんど演劇に近し。主役のイサベル・ユペール、何故胸を開けをらずばならぬか、新聞評にても疑問視せられたり。日本人歌手濱田理恵さん好演したるも、合唱と同じ暗き場所に紛れ、カーテンコールに出で来る能はず。

ELEKTRA(エレクトラ)(九二年十月、九三年一月)

シュトラウス作曲、再演。ギネス・ジョーンズは昨シーズンに引き續き壓倒的なる感銘を與ふ。妹役は米國のヴォイト、立派なる聲にて、二重唱の迫力は満點なりき。エレクトラの如き一幕ものオペラ、時間短きにも拘らず値段は通常のオペラと同額なれど、かく迄密度高ければ價値十分にて満足す。

RECITAL BARTOLI(バルトリ)(九二年十月)

伊太利のメゾ、バルトリのリサイタル、ピアノ伴奏は指揮者のチョンミンファン。バルトリ超人氣者だけに、切符賣り場の行列は格別に長し。前半にてはラヴェルのヴォカリーズ印象に残る。後半はロッシーニ盡しにて俄然凄味を増す。アンコールはロッシーニ三曲とモーツァルト一曲。

FAUST(ファウスト)(九二年十一月、十二月)

グノー作曲。ファウスト役は瑞典のテナー、イエスタ・ヴィンベリ、ビョルリンクの後繼者として母國にては人氣高し。舞臺は、第二幕などアルベルヴィルオリンピック開會式のサーカス風景を髣髴とせしむ。マルガレーテ役の米國人ソプラノ、エス・ペリアンはバスターユの華といふべし。